

注 意 報

長崎県病害虫防除所長

平成18年度病害虫発生予察注意報第8号

普通期水稲 トビイロウンカ

1. 発生地域（対象地域） 県下全域

2. 発生程度 多

3. 注意報発令の根拠

(1) 主要飛来波は6月25～27日、7月4～6日、7月21～23日に認められた。7月4～6日及び21～23日の飛来が多かった（表）。

(2) 7月5～6半旬の巡回調査（94筆）の結果、普通期水稲における株当たり虫数は0.1頭（平年0.0頭、前年0.1頭）と多く（図1）、中・老齢幼虫が主体であった。県北部では株当たり虫数が1頭を超える圃場も認められた。発生圃場率は31.9%（平年8.9%、前年31.9%）で過去10か年で最も高く、前年並であった（図2）。

表 トビイロウンカの誘殺状況

月日	諫 早			島原	佐世保	岐宿
	白色	青灯	ネット	白色	白色	白色
6.25	0	0	0	0	1	0
26	1	1	0	1	1	6
27	0	1	0	0	0	0
28	1	0	0	0	0	0
29	0	0	0	0	0	0
30	0	0	0	0	0	0
7. 1	0	0	0	0	0	11
2	1	0	0	1	1	1
3	1	1	0	3	0	2
4	0	0	1	0	0	0
5	47	24	0	12	25	19
6	11	10	0	19	1	5
7	9	5	0	4	0	0
8	1	2	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	1
11	0	0	0	1	0	2
12	0	0	0	0	0	0
13	1	0	0	0	0	0
14	0	0	0	4	0	1
15	0	0	0	3	0	1
16	0	0	0	0	0	12
17	0	0	0	0	0	0
18	1	2	0	0	0	0
19	3	4	0	0	0	0
20	0	0	0	0	0	2
21	1	16	0	0	0	3
22	1	0	0	-	0	1
23	158	52	0	-	-	4
24	2	0	0	-	-	-
25	0	0	0	-	-	-
計	239 (10.3)	118 (50.1)	1 (0.5)	48 (5.3)	29 (5.5)	71 (7.3)

注1) 白色：60W白熱灯、青色：20Wフッ素灯、ネット：ネットトラップ

注2) 計は諫早が6月～7月5半旬までの合計値、その他は6月～7月4半旬までの合計値で（ ）内はH8～17年の最大・小値を除く平均値

注3) - は欠測

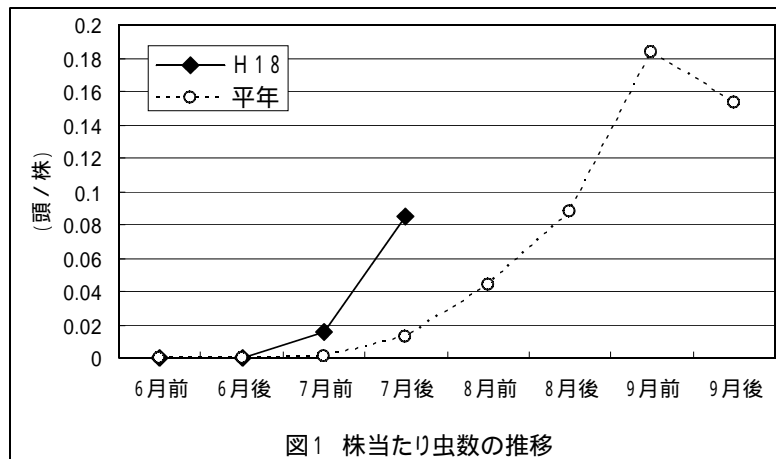


図1 株当たり虫数の推移

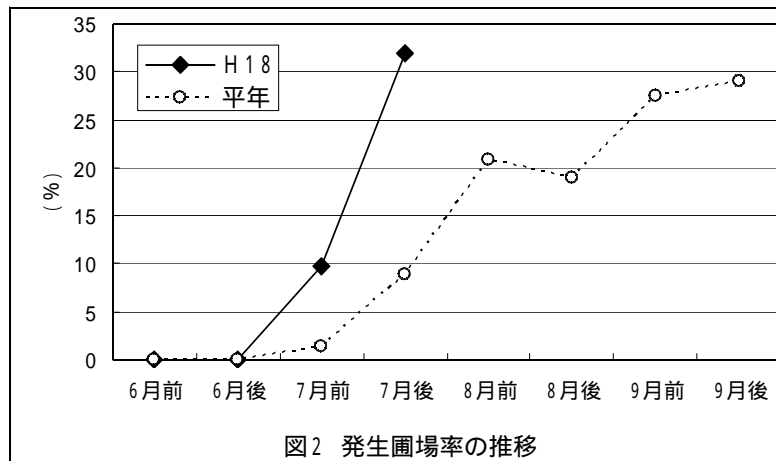
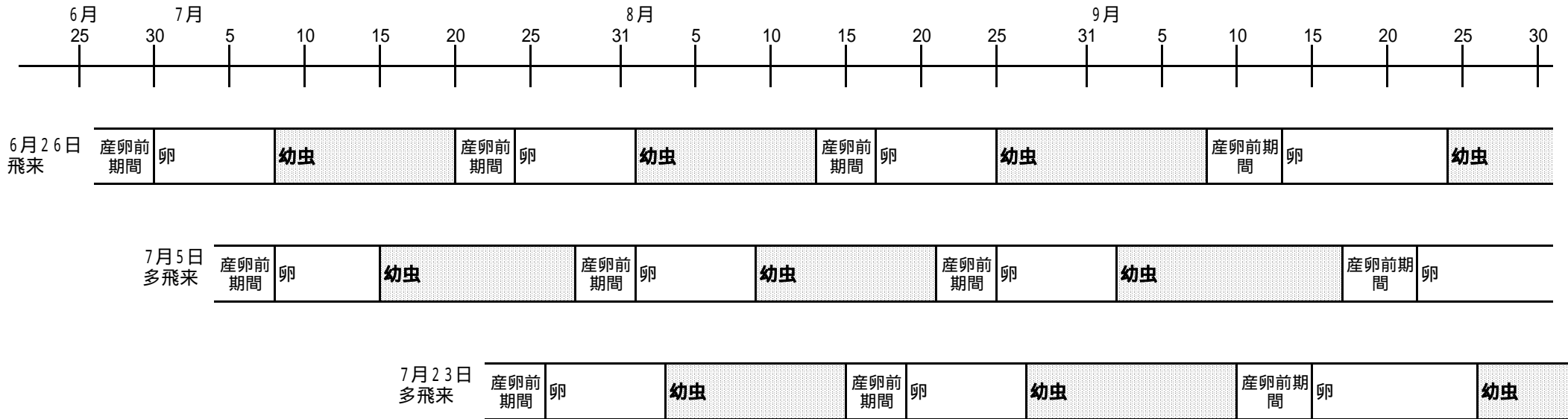


図2 発生圃場率の推移

4. 防除対策

- (1) 7月下旬～8月上旬に株当たり虫数が0.2頭以上または出穂期頃に株当たり虫数が1頭以上の場合は早急に防除する。
- (2) それぞれの飛来波ごとの今後の発生は別紙図の様に予測されるので幼虫ふ化揃い期の防除を徹底する。ただし、本虫は圃場間や同一圃場内でも場所によって発生状況が異なることが多いので圃場の見回りを徹底し、発生状況を把握した上で防除をおこなう。
- (3) 防除実施後も圃場における発生状況を把握し必要に応じてその後の防除をおこなう。
- (4) 本虫は株元を好んで寄生するので薬剤散布は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧におこなう。
- (5) 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。

(別紙) トビロウソウの発生予測図(平成18年)



発生予測の気温は西諫早(総合農林試験場)のデータを用いた(7月26日まで本年実測値、7月27日以降は平年値)